



本 愛

発 行
天理教本愛大教会

〒 453-0821
名古屋市中村区大宮町 1-60
TEL (052) 461-4326
FAX (052) 461-4320
〒 632-0071
奈良県天理市田井庄町 19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広 報 部

立教 182 年 活動目標

- 「恩報」の実行
- 初参拝の推進と新よろこぶの丹精
- 報恩感謝のおつくしの徹底
- 若者にご恩報の心を伝えよう
- 一名称が本年まで三人の修養科生を守護頂う
- 報恩感謝別席団参の実施(11月24日)

女子青年大会に1万1千人が参集

婦人会創立110周年に向けて誓い新たに

婦人会本部では11月3日、本部中庭で「第29回女子青年大会」を開催した。当日は、国内外から約1万1千人の会員が参集。挨拶に立たれた中山はるえ婦人会長は来年の婦人会創立110周年に向けての心構えなどを諭された。また、前日の2日には前夜祭が行われ、本愛女子青年も模擬店を開いた。(5面に関連記事)

婦人会長様は挨拶の冒頭、「広げよう信仰のよこびを 友達さそっておちばへ帰ろう!」とのテーマのもと、基本教理の習得や真柱様のお言葉を勉強するなどの活動を積み重ねてきた一同を労われた。

そして、「元の神・実の神である親神様の御教えを聞いて、なるほどと思ったから実行する。それが人間の

本当の幸せな生活につながる」と述べられた。

続いて、「ほこり」の心遣いに触れ、心を澄ましていくためには、「自由に使わせていただける心をどう使うかが一番大切であつて、この素晴らしい身体をお貸しください、日夜絶え間なくご守護くださる親神様にお喜びいただけるような使い方をすること」が大切と諭された上で、おつとめの勤修と人だすけの重要

性を説くとともに、「誠の心」について詳しく話された。

その上で、婦人会創立に込められた親神様の思召について言及。「世界たすけにお働きくださる教祖の手足となって、女性の徳分、特性を生かしたおたすけを実践し、お互いに諭し合いながら、心の成人を図っていくのが婦人会の目的」と述べ、「私自身も女子青年活動がなければ、どうなっていたかわからない。女子青年活動があつたおかげで信仰的な成人ができた」と述べられた。来年開催される創立110周年記念総会に向け、女子青年も婦人会員としての自覚を持ち、一人でも多くの人を誘って参加することが求められている。

第945期 修養科生募集

集合・面接 ○日 時..12月23日

○場 所..本愛大教会

※12月20日までに神殿事務所へお申し込みください

12月のこよみ	
入 社 祭	1 日 午前10時
祭典終了後、教会長連絡会	よふき会例会
月 次 祭	2 日 午前10時
布教実修所	13 日 午前10時
本愛こども会	14 日 午前9時30分
むつみ会例会	15 日 午前10時
婦人会例会	16 日 午前10時
女子青年例会	20 日 午前10時
こはる会例会	21 日 午前10時
雅楽勉強会	21 日 午前10時
修養科志願者面接(天教会)	22 日 午前10時
本部月次祭	23 日 午後1時
青年会例会	26 日 午前9時
大 祓 式	28 日 午前4時
	31 日 夕つとめ後

立教182年秋季大祭神楽講話 要旨



本部長・高安大教会長

松村義司 先生

私は現在、道友社の社長をしていますので、毎週天理時報をチェックしています。すると記事の中に、子どもおぢばがえりの忍者村の特集記事があり、そこには、ひのきしんをしている大学生のインタビューが載っていました。

その大学生は、水鉄砲で子供たちの相手をするとき、喜んで水をかけてくる子供には、自分も遠慮なく水をかけます。しかし、中には水がかかると嫌な子やおとなしい子もいるので様子を見て、まず足下を撃つようにしてると言うので

す。あるいは「どこから来たの？」と声をかけるようにしている。そういうことを考えているんですね。

この学生さんは偉いなと思います、忍者村へ行ったときに、会場の責任者にそのことを話したのです。すると、その責任者の方も驚かれ、「そんなことは教区で指導はしていないから、自分ですう思いやっているのですね。そんな子がいるんですね」と感心してくださいました。

真夏の暑い中、何時間も子供の相手をするというのはなかなか大変です。水鉄

砲で水を遠慮なくかけてくる子もいます。また涼しい日などは、びしょびしょになると、むしろ寒いのです。そんな中、そのように心をかけてくれている子がいる。帰ってくる子供たちに、なんとしても喜んでもらいたい気持ちでつとめてい。そんな人たちが集まっているから、こどもおぢばがえりはうまくいくんですね。

人を思いやる心を育てる

もう一つ、これも天理時報の記事ですが、お正月のお節会会場を、教外のジャーナリストの方が取材をしてくれた記事が載ったのです。その方は会場内でのひのきしんをする高校生にいたく感動された。天理高校と教校学園の生徒が、お餅や野菜をうれしそうに配る姿に非常に驚かれています。「これはやらされているのではなく、クラブ

感覚でやっているように映る」と記事に書いてくださったのです。クラブ感覚というと自分が好きなクラブに入ってやりたいことをする。それくらい前向きに人のお世話をしているということがあります。

おぢばで学ぶ学生には、自然とこのような姿が表れてくるのであります。これは、教会の会長さん方や信仰のある家庭での親御さんの、自分のことはさておいて、人のことを心配してお世話を取をする姿”を見て育っているからだと思っております。あるいは少年ひのきしん隊などに参加して、自分が「お茶どうぞ」とお茶を差し出したら、相手の方が「ありがとう、うれしいよ」と反応してくれる。それで人に尽くす喜びを知ることができます。

そういう経験をして育った子が天理高校の中心にいて、教祖の教えを聞き育つ

ていく。そうして、素直に人を思いやり、人に尽くすことのできる心を持った若者に育っているのだと思います。

おさづけの理を頂いた時に頂戴するおかさぎげの中に、

人を救ける心は真の誠一つの理で、救ける理が救かる
とお示しく致します。また、

誠一つの理があれば、内々十分睦まじいという一つの理が治まる
ともお聞かせいただきませす。ようぼくとして一番大切な心は、日々に誠の心、誠真実の心を持つて暮らしていくこと。これが教義なのだを教えてくださっております。

言い方を変えると、誠の心が自分の心の中に育つていけば、自然と自分の事はさておいても、人をたすけようという心が湧いてくる

のだと思うのです。身軽に、そこへ身を投じることができるといことだと思いません。

ではどうすれば、誠の心が心の中にでき上がってくるのか。これは教典に、

たんのうの心が治り、ひのきしんに身が勇んで、欲を忘れる時、ここに、

親神の思召にかなう誠真実があらわれる。

と記して下さっております。たんのうの心が治まり、自分のいんねんを自覚して、喜び感謝する。そして何よりも親神様からかりものの身体をお借りして生きているという、元のいんねんを自覚すること。そして、

たんのうの心を養い、元気に身を置いていただいている報恩感謝の気持ちでひのきしんをする。続きさせてもらう。頭で考えるだけでなく、心で思うだけでなく、それを実に表すことを常にやっていくということが大

切なのです。

そしてもう一つ、八つのほこりを払うことを日々心がけて、自分さえよければという我が身思案を捨て去り、よくの心から離れていく。これができたときに、誠真実が現れると、教えていただいているのであります。

誠真実の心とは、親神様の思いそのままに動けるようになるということ。そして、人のことを思ったらじつとしておられず、自然と身体が動くようになるということなのです。本当にそうなったら、お道を通るのがとても楽しくなると思うのであります。

人だすけのできるようぼく

去年の暮れに、天理高校に通っている子供さんが、3年生になってから、クラブの人間関係にうまくいかなかった。心を病んでしまいました。学校へも行けなくなり、結

局、退学することになってしまいました。なんとか次の学校へ転入できるようになりましたが、その前に修養科へ行くことになりました。

最初の頃は、歩いているときなど、天理高校の友達と会っても手を振り合うなどして機嫌よく通っていたのですが、2カ月目くらいからまた心を病みだしてしまい、家に帰ってしまうことがありました。

そんな中、同じクラスの方たちが、お願いづとめや世話取りをしてくれたりしました。また、その子の母親が詰所まで来て、面倒を見ながらひのきしんをするなど、しつかりと伏せ込んでくれたおかげで、修養科を無事に修了することができたのです。

その頃は真柱様のご身上で、ずっとおさづけの理を頂けなかった時期でした。ところがその年の2月から

頂戴できるようになり、最初に頂けたのが修養科生でした。その修養科生の中に、その子がいたんです。

天理高校というのは、通常3年生になるとおさづけの理を頂戴するのですが、今年の卒業生は頂戴できませんでした。教校学園の生徒も頂けませんでした。しかしその子は、中退したからこそおさづけの理を頂き、ようぼくになれたのです。

失礼な言い方になるかもしれませんが、天理高校でエスレーターのように普通におさづけの理を頂いたら、もちろん大事にしてくれる子もいます。けれどどこか当たり前のような感覚になって、形だけ頂いて終わりということも無きにしもあらずだと思うのです。

しかしその子は、修養科生活の中で色々なことを体験し、人にたすけてもらう

喜びやお互いにおさづけを取り次ぎ合う姿を間近で見ました。そんな3カ月を過ごし、おさづけの理を頂戴したので、拝戴後すぐに身上の方におさづけを取り次いだそうです。

そして地元へ帰る前、私に「帰ったらおばあちゃんとお姉さんにおさづけを取り次ぎます」と言いつて帰っていききました。本当におさづけを取り次げるようぼくになって帰ってくれた。これは本当に値打ちがあつたなと思いました。

今現在、何カ月かに1回、直屬ごとに2人ずつ、おさづけの理を頂戴できます。本当に貴重なおさづけの理の拝戴であります。形だけで終わらせず、しつかり使わせていただき、おたすけのできるようぼくに成人させていたただくのが、今の時句の務めと思うのであります。

(文責 広報部)

教理随想

言わん言えんの理を探る



「自分の顔を自分の目で見たことがあるか」と尋ねられたら、皆さんはどう答えるでしょうか。おそらく「もちろん毎朝、鏡で見ています」と答える人が多いと思います。

しかし少々理屈っぽく言えば、これは自分の顔を見ているのではなく鏡を見ているのです。人間の顔の構造では、絶対に自分の目で自分の顔を見ることはできないようになっている。つまり鏡やガラスに反射した姿しか見ることができないような構造に親神様が創られたのでありま

す。このことから悟れるのは、自分の魂に付いたいんねんは、善悪にかかわらず、絶対に自分では分からないということであります。

顔の汚れならば水で流せばきれいに落ちますが、魂に付いた汚れ、すなわち悪いんねんを掃除するのは容易ではありません。ですから親神様は、あえて誰にも分からないようにしてくださっています。けれども放っておいて汚れがきれいになるはずがない。魂の掃除を怠っているのは絶対に運命は好転していきません。

身上や事情が起きた時に、当面の方策や手段を講じても、それが思うように成ってこないのは、目には見えない自分の魂に悪いんねん

という汚れが付き、同時に徳が少なくなってきた姿だと悟る心の姿勢が、運命を好転させるための第一のきりめであります。

親神様はおさしづの中で、世上が鏡、いかなるもの、心通りに映してある。

(明治21年7月29日)

とお教えくださいました。私たちは鏡に映る姿を見て顔や服装を整えます。それと同じように、周囲の人や仕事の状況などに現れる姿を鏡として我が魂のいんねんを悟り、納消を心がけながら日々を送ることが、運命を改良するための基本的な生き方であります。

病気で味わう苦痛や不自由さ、また事情の悩みや苦しみを一時的に抑えるためには医薬や、時にはお金も必要でしょう。しかしそれだけでは一時しのぎをくり返すだけでは、本当の解決やたすかりにはなりません。真の解決には魂のいんねんを納消する以外に道はないのであります。ではどうすれば悪いんねん納消の道が拓かれていくのでしょうか。

■喜びの旬を目標に

おふでさきに、わかるよふむねのうちよりしやんせよ 人たすけたらわがみたすかる (三一七)

とあるように、親神様のお望みである人だすけの御用こそ、我が心の汚れを取り去り、魂に徳を積むただ一つの方法であります。

人に直接教えを説いておたすけに当たることができれば一番よいのですが、たとえそれができなくても、教会へ足を運んで人のたす

かりを祈り、誠を神に捧げる。その心に不思議な理の働きが現れるのであります。大教会では再来年の三月に担任変更の打ち出しがありました。六代会長就任奉告祭は令和三年六月二十日に執行されます。この喜びの旬を目標として、内に向けては我が心の反省に努め、外に向けては自分にできるおたすけに勤しむ日々を送りましょう。その誠真実が天に通じる時、銘々の運命が切り換わり、楽しみが道が拓かれていくのです。

寄り来る処、日々種を蒔く、一つ種を蒔く。旬々の理を見て蒔けば皆実がのる。旬を過ぎて蒔けばあちらへ流れ、遅れてどんならんく、

(明治22年7月31日)

旬の理に遅れぬようしっかりおたすけの心を定めて一人一人が自分にしかできない道広めの御用に邁進しようではありませんか。

【第60回】

周囲の姿を心の鏡として おたすけに誠を尽くす旬

女子青年大会に本愛支部からも 前夜祭に笑顔で彩り添え

本愛女子青年では、11月3日に開催された「第29回女子青年大会」に34人が参加した。

同大会の前日に行われた前夜祭「よろこびフェスティバル」では模擬店を出店。チキンナゲットとフライドポテト計700食を、訪れた人たちに笑顔でふるまった。



大会当日は、全員で式典に参加。婦人会長様の挨拶

を拝聴した後、女子青年の愛唱歌「すてきなあなたに」を斉唱し、式典後は東・西礼拝場にて参加者全員でおつとめを勤めた。

その後、詰所に移動し、記念行事「支部のつどい」を行った。

第95回青年会総会開催

本愛分会からも多数帰参

10月27日、「第95回天理教青年会総会」が本部中庭で開催された。

当日は、国内外から約1万6千人が参集。告辞を述べた中山大亮・青年会長は、基本方針である「世界たすけへの挑戦」について詳説し、これから目指す「10年後のビジョン」を明示された。「世界の至るところで、その国や地域の社会問題の解決に力を注ぎ、

そこで動くあらしとよりよう一人ひとりが教祖の教えを伝え、人の心をたすけている」というビジョンに向かって、会員それぞれが、自分の徳分を生かしてできるおたすけに挑戦するように促された。

本愛分会でも、本部総会に合わせて、大勢の会員が帰参した。

総会式典後には、昨年に引き続き、本愛詰所でパーベキューを開催。参加した

会員や家族などとともに親睦を深めた。

十三峠越えに挑戦

本愛学生会

本愛学生会は11月10日、「十三峠越え」を実施。計7人の学生が参加した。

前日におちばへ移動した一行は、翌日早朝から大阪府内へ移動。途中の険しい山道では、互いに手を取り合いながら登るなどして、無事本部神殿まで全員で歩き通した。

年末年始の行事

◆ おちば ◆

別席 12月28日から元旦まで休み。2日から通常通り。

元旦祭 1月1日午前5時から本部神殿にて執行。

お節会 1月5日(日)より7日(火)までの3日間、いずれも午前10時から午後1時まで。

◆ 大教会 ◆

餅つきひのきしん

28日 午前4時

年末清掃・迎春準備

29日 午前10時

大祓式

31日 夕づとめ後

立教183年

元旦祭

1日 午前5時

教会長年頭連絡会

12日 午後1時30分

インタビュー

「人を幸福から遠ざけるもの」とは何か。米国の著名な精神科医、G・リヴィングストン氏は著書の中で、

30年以上にわたって多くの人の「幸せになりた」という悩みを聞き続けてきた結論として、「人生に意味があるとと思えないこと」こそが、人を幸福から遠ざけると述べている▼一方、先ごろ行われた国連の調査では、「自分は他の人よりも幸福だ」と感じるには、「選択の自由があること」が重要な役割を担うことが示されたという▼「やらされた行動」では人は幸せを感じられず、「敢えてやっているのだ」という感覚が、自らの行動に意味と幸福感を与える。そう思っ振返ってみれば「やらされている」と感じることも多いこと。ひのきしんの意味をあらためて心に刻みたい。

10月のおさづけの理拝戴者

本 築(本築地) 西田 和剛
 本孝徳 上野 恵
 " 伊藤 沢斗
 以上3名

10月の初席者

本修徳(本愛アトランタ) 高山 武志
 " (") 竹中 智博
 " (") 竹中 裕子
 本海部(本海門) 鳥居 淳
 本正義(本八雲) 磯村 幸美
 本清明 中島 輝
 以上6名

総会開催

婦人会本枇杷島委員会(青木奈美子委員長)では、11月17日午前11時より、安藤くみ子・本愛支部長を迎えて、同分教会において「第21回婦人会総会」を開催した。
 婦人会本心委員会(長江まどか委員長)では、11月23日午前10時より、安藤く

若いお父さん・お母さんへ

家族ぐるみで

教会へ参拝しましょう

婦人会・青年会・少年会からの提唱



み子・本愛支部長を迎えて、同分教会において「第59回婦人会総会」を開催した。

令和元年台風19号により、各地に甚大な被害が生じております。

大教会では、この災害で被災された方々を支援するため、神殿事務所にて義援金を受け付けております。

大教会日誌

令和元年10月25日～令和元年11月24日

10月

- 25日 秋季大祭総合団参(近鉄列車・26日まで) 12日 常任役員会議
- 26日 本部秋季大祭 13日 月次祭
- 27日 第95回天理教青年会総会(於:本部中庭) 祭主・大教会長 扨者・筑紫英一、和光重男
- 30日 ほんあいOKEIKO 指図方・板山公司 賛者・大池美公雄、杉下和平
- 31日 常任役員会議◇役員会議 ◇祭典講話—安藤吉人

11月

- 1日 入社祭 14日 布教実修所
- 祭主 大教会長 扨者・大橋 進、松浦道太郎 おつとめ、布教実動、教理講座、ふり返り
- 指図方・板山公司 賛者・細川 明、佐藤幸一郎 16日 むつみ会例会
- ◇おたすけ講話—石井富男 こはる会例会
- ◇教会長連絡会 17日 本愛こども会
- 2日 よふき会例会 こども食堂「MOGU」参加者68人
- おつとめ・十二下りてをどり、連絡会 20日 婦人会例会
- 3日 第29回女子青年大会 22日 雅楽勉強会
- 9日 学生会十三峠越え(10日まで) 24日 報恩感謝別席団参